

《議事録》

7 協議 (1)第6次南陽市総合計画後期基本計画策定方針について

(2)市民意向調査及び中高生意識調査について

(3)その他

(池田めぐみ委員)

市民意向調査のところで質問だったんですけども、3ページ目の行政サービスの満足度についてお尋ねしますということで、従来から同じ質問項目を設けてくださってるってことなんですけれども、SDGsのマークのものと対比して同じ内容が書いてあるかなと思うんですが、例えば1番の健やかで安心な暮らし子育てを実現するとなったときに、子育て支援を充実させるという回答する人と、高齢者支援を充実させるということが全部包括されてるんですけども、例えば子育て真っ最中のお母さんたちが、満足度と重要度を書き込むのと、障がい児支援もそうなんですけれども、いるといないとでは満足度と重要度が変わってくるかと思うんですけど。これは、細分化するとか、これまでのアンケートの中で一括るにしても満足度のある結果が得られたかどうか、その辺をお聞かせください。

(事務局)

1番の例で申しますと、健やかで安心な暮らし・子育てを実現するというのが大きな柱となっている。その中で、子育ての支援とか、健康づくりとかが枝分かれになっているんですけども、それを細分化せずに大きな目標の項目の中でのご審議をいただきたいということで、今回はこのように設定させていただきました。やはり、項目が多くなりますとページ数が増えてくると、市民の方の負担になって回答率が下がるということも勘案いたしまして、このような形にさせていただいた経緯はございます。

(池田めぐみ委員)

ここが1番大切なところかなと思っていて、例えば1番最初に何十代、10代、20代です。女性、男性です。みたいところで出てくる答えと、やっぱり傾向がより読みとれるのが、ここの施策の項目にどれだけ満足しているかっていうところに反映されるのかなと思っていて、質問させていただきました。もちろんチェックするのが大変というところは出てきたりするんですけども、高齢者が回答するものと産後のお母さんが回答するものは全然変わってくると思うので、それをどれだけ細かに見て取るかといったところは、これでもう出来ているとは思うんですけども、ちょっと気になった次第でした。

(事務局)

説明不足で大変申し訳ございません。最初におっしゃっていた属性なんですけれども、年代との相互性、クロス調査の方も分析いたしますので、そこである一定のことは分かると思いますが、特化してと言われますと、やはり詳細な数字は出てこないかなと思います。例えば、20代の方がお答えになったとなれば、やっぱり子育て重視でお考えになっているのかなという分析はされるということでございます。

(池田めぐみ委員)

できるだけ、意見を汲み取れるような形でお願いできればと思います。

(会長)

ありがとうございました。非常に大事なご意見だと思います。要するに、層別する属性を明確にしないと、一緒にぐちゃってしてしまうと、何が何だか分からなくなってしまうので、少し分けて、多分そういう形で出てくるので、前回の調査でも出てきていますので、属性をうまく分けて、本当に大事なところを明確にしていくということは重要だと思うので、事務局の方でそのようにお願いしたいというふうに思います。特に大きく直す必要はないのですが、池田委員よりあったように、大きく属性のところを明確にできればいいのかなと思います。

(三坂英彦委員)

基本的にご説明いただいた内容でよろしいかと思いますが、色んな計画を立てるということまでは、多分企業さんも含めて、計画は立派な計画を立てるのですが、そのあとのどう実行して、どう効果が出たかという、効果が出なかったことも含めてですけども、そのところをしっかりと検証していただいて、なおかつそれにこの意向調査を反映させた向こう5年の取組というふうな計画策定を、基本的な総合計画については変わらないということで、私も賛成でございます。やはり、その次どう動くかということをお願いしていただいて、昨年も出ささせていただきました、まち・ひと・しごとの総合戦略の KPI のところも、もう一度今の状況と併せて見直しをいただきながら、より具体的に市民の方がイメージできるような計画にしていただければいいのかなと思っております。色々、KPIとかだと、「イノシシの駆除」とかですね、大事なことではあるのですが、前は消えているんですが、その辺のところとかですかね、やっぱり農業とかも非常に注目されている分野ですし、当然、果樹、米など色んな分野で南陽市の方は、取組も非常に県の中でも有数だと思っておりますので、そういったところの人の確保であったりというところを、しっかり盛り込んでいただければよろしいのかなというふうに思っている。以上でございます。

(会長)

未来に対して、どういうふうに手を打っていくのかが、この審議会の1番大きなポイントだと思うんですけども、やっぱり前半の成果と反省をしっかりと捉えて、7月以降に皆さんとまた議論させていただきたいと思っているのですが、その辺を三坂委員のお話を少しベースにして、同じまとめ方でも、色を付けて話していただけたらいいのかなというふうに思います。

ありがとうございました。今日はアンケート関係(意識調査)が中心となりますので、本格的な議論は7月に時間をたくさん取っていただいて、しっかりと議論をさせていただきたいと思います。アンケートについて、ご意見ある委員の方おられましたらお願いいたします。

(淀野秀樹委員)

地区長会の仕事もさせていただいているのですが、この中高生アンケートの方で、南陽高校を選ばれていると思いますが、私が教員なりたての頃は赤湯園芸高校と宮内高校でけっこうな数の地元の子どものお世話になっていたんです。残念ながら、どんどん時間が流れるにしたがって、西置賜の子どもがたくさんいる

と聞いてますし、私立の方にけっこう優秀な子どもたちも流れている。それから地域の行事の中で、高校生や大学生、専門学生がほとんどいない。現れてこない。ということがありまして。南陽高校の子どもたち(生徒さん)のアンケートだけで、次世代を担う若い世代の意見が成り立っていくのかどうか。ちょっと感じておりますので、この点に関して教えていただけたらというふうにあります。

(会長)

大変難しい質問だと思いますけど、もっと広く高校生、大学生の意見を入れたらいいんじゃないか、そういう話ですね。

(淀野秀樹委員)

いえいえ。今、居住している高校生が、南陽高校以外にたくさんいるので。

(会長)

要するに、他市に通っている子どもたちの意識調査をなさったらいかがか、意見も入れたらいいんじゃないかと、そういうことでよろしいでしょうか？

(淀野秀樹委員)

はい。それが大事だと思います。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。南陽高校に通っている市内の学生さんも数名いらっしゃいますけれども、南陽高校全体で言いますと、大体200名から250名程度いらっしゃると思います。南陽高校に通っている市内の学生さんの人数に関して、調査は取れないんですけれども、大学生になりますと、市内にいらっしゃる方は18歳以上ということで、無作為抽出の方に入ってきます。ただ、無作為ですので、今後の進路について、勤めてる方もいらっしゃれば、在学の方もいらっしゃる。また、県外に転出なさってる大学生については、追いかけることができないという事実はございます。ただ、県外にお住まいになってる方には、こちらの方で支援してます事業等でアンケートを取るなど、そういったことはさせていただいておりますが、答えられるかどうか分からないんですけれども、南陽市民の高校生を全員に調査するという事は、今までしたことがございませんので、今後そういったものが必要となれば、検討していくことが必要なのかなと、考えているところでございます。

(会長)

今の回答でよろしいでしょうか。非常に難しい問題だと思うんですけれども。

(淀野秀樹委員)

いやいや。中高生の学校に通ってらっしゃる子どもたちってアンケートを取りやすいです。なので、南陽高校と考えられる基準の部分の調査なのか、もしくはやっぱり南陽市で毎日居住して通ってはいるけれど、土日祝祭日、将来的には戻ってきてほしいって、その願いがかかっている子どもたちの意見を重点的に聞くべきだというのは、中々言いにくいことなので、あえて今日参加させていただいてるので、お聞きいたしま

した。ぜひお考えいただければと思います。

(会長)

どこでも多分一緒なんですけど、米沢市さんでも一緒なんですけど、米沢市内に通ってる子どもと山形に今朝の電車に通ってる子どもたちがいるんですね。米沢市でもそういう話してるんですけど、やっぱりなぜ山形市に行かなきゃいけないかというのは、やっぱり調査していかないとまずいですよって話はよくしてあるんですよ。やっぱり特に南陽市の場合だと、1つの高校しかないんで、長井市、高畠町、山形市、米沢市に行く人たちの意見も聞いておいた方がいいなっていうふうには思います。何らかの形で、アンケートの工夫をしていただきたいんですよ。せっかくこういうご意見が出たので、ぜひ私の方からも検討していただきたい。大々的ではなくて、サンプリングでいいと思うので、何人かにやっぱりそういう意見を聞くということも大事だと思いますので、よろしく願いいたします。

それでよろしいでしょうか？

全部は多分無理だと思うんですけど、何人かサンプリングマークして話を聞くだとか、駅にてアンケートを渡して回答してもらうだとか、そういうようなちょっとした工夫をしていただければいいんじゃないかと思います。

(淀野秀樹委員)

地区長を通して、そのご家族がいらっしゃることが分かるので、こういうことだからっていうふうにご自宅に頼むのが、いいんじゃないかなというふうに思います。

(会長)

やっぱり広く意見を求めた方が私もいいと思いますので、ぜひ若者の意見を大事にして欲しいと思います。いずれやっぱり南陽市に帰ってきて、南陽市で活躍するっていうために外に出た人たちが、どういうふうを考えてるかというのは、非常に重要だと思いますので、何らかの形で工夫をしていただきたいというふうに思います。

その他に、今回は1人1人っていう場合にはいかないのですが、ご意見あれば今みたいな話で結構なのでいかがでしょうか？

(菅野直彦委員)

私は商工会の菅野でございます。市民意向調査4ページの間15でございますけど、「他の市町村の取り組みや南陽市が取り入れたらいいと思うものはありますか」という質問なんですけど、この質問に大体付随していきんですが、まず最初に戻りたいんですけど、このアンケートはどこまで活用されるのか、これをメインにして計画を作っていくのか、参考程度なのか、そこをちょっとはっきりしていただきたいと思うんですね。まずそこから、これからまた話があるんですが、ちょっとお願いしたいと思います。

(事務局)

あくまでもこちらは参考にさせていただくメインというか、どういったお考えがあるかということ参考にさせていただくアンケートになりますけど、基本的に大きく関係性があるようなところ、そういったことに関しては計画の中には強く盛り込んでいかなければいけないところもあるのかなと思っております。

(菅野直彦委員)

そういうことであるならば続けます。問4の15番に関しては、非常に大事なところなんです。商工会が関係してる商工観光課の方にもお願いしてるんですが、置賜地区でいいですからと言ってます。他市町村と比べて南陽市の商工関係の施策で、劣っているところ、優れているところを一覧にまとめてほしいと今言っているんです。というのは、そもそも大事なんですよ。それが我々分からないというのは非常にまずいなど。これは、商工関係だけじゃなくて、子育てしかりです。あと私が強く言ってる病後児病児保育に関しては、商工会も関係するので強く言ってます。これは、ちょっと南陽市は遅れてるはずなんです。そういうのがよくわからないんですよ、正直なところ。三坂支店長がおりますからあれですけども、高畠町は町で、いわゆる保証料の支援をしている案件が南陽市よりも多かったりするわけです。例えば家づくりだったら、高畠町の補助金の方がはるかに大きいです。あともう1個びっくりしたのは、米沢市は一般家庭で家電製品を買うと補助金が出るそうです。そういうのって知らないんです、皆さん。我々はあちこちに行くから聞いてくるんだけど、初めて知ることだって。そういうのもあってなおかつ、アンケートが実施されるのであれば、これは施策の打ちようがあるんだろうと思うんですけど。それが我々全然わからないっていうのは、非常にこれはまずいなど。南陽市の進めているところは何なのと言われても、なんとなくしか分からない。そういうのはやっぱり、これからの南陽市の市政づくりには大事だと思ってますので、この調査とか、開示とかっていうのをお願いしたいと思います。以上です。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございます。やはり比較するには、比較対象を知らないと比較できないということがございますので、勉強になりました。ただ、前回の南陽市に不足している点はお伺いしたところ、やはり交通機関ですとか、発信力、アピール力、商業施設専門店が少ないなどの回答が多かったということはございますが、今のような細かいところでの比較できるような資料もこちらの方で準備できればと思っている。

(会長)

よろしいでしょうか？活発なご意見ありがとうございます。皆さん、いかがでしょうか？

(加藤敦之委員)

南陽青年会議所で、私は39歳が一番中高生に近い歳取っているというところで、中高生のアンケートの内容について、ちょっと細かいところなんですけども、共通の16番で「南陽市がさらに魅力あるまちになるために必要だと思うあなたのアイデアを自由に書いてください。」、これ結構高校生とか中学生に関しては、これから大人になって、南陽市に住みたいと思うか。こうなれば住みたいかなって思う。なんか希望みたいなところを持って人たちにとっては、この設問が最後に来てるっていうのは、結構自分たちの意見が何かあったとしても、大して重要視されてないなっていうように感じるような気がするんです。なので、共通の9番の「南陽市が取り入れたらいいと思うものはありますか。」という、これも確かに重要なところではあるんですけども、それよりも前に何かアイデアがあったらということで聞いた方が、これ設問をする大人の姿勢っていうところに関しても、子どもたちをないがしろにしない姿勢を見せるっていうところでは重要なのかなと思ひまして、16番はそれ以外に、その他何でも書いてくださいっていうような設問にした方が、子

どもたちにとってはいいのかなというふうに感じましたので、ご意見とさせていただきます。以上です。

(事務局)

その順番につきましては、前回同様とさせていただいておりますので、そういった何を求めているか、こちらの方の求める強いものを全体の方に持ってきてってことを考えながら、再度ちょっと検討させていただければと思います。基本的な流れ的にはずっと来てるんですけども、そういった設問の順番につきましては、ある程度は変更可能だと思いますので、協議させていただきたいと思っております。

(加藤敦之委員)

実際に、これを子どもたちが書いてくれたアイデアが使える使えないというのはもちろんあると思うんですけど、ただ聞き方としてというところで、意見させていただいた次第です。よろしくお願いします。

(会長)

聞き方、伝え方が非常に大事だと思いますので、全部はできないにしてもやっぱり意見を出していただいたのを少しでも反映できるような姿勢が非常に重要だなと私も思いますので、よろしくお願いいたします。その他いかがでしょうか？

(須藤清市委員)

大変ご苦勞様でございます。今いろんなご意見を聞いていたのですが、私は南陽市の魅力のベースに公民館くらいの地域ごとの比較というのが、すごくこれから生きてくると思っております。例えば、宮内、赤湯、梨郷とかありますけれども、その人たちのどこの住まいかということもそれはあるんですが、外から見た南陽市、あと仕事なり勉強なりしている自分の気持ちの南陽市の印象、それからそれに伴ってこんなことをしたらっていう自分のアイデアを書き込むための、自分の自信というか、データというか、そういうことをすごく書いて、見てお答えになると思いますが、このアンケートに資料はないんでしょうか。今、南陽市この5年間、こういうふうになりました。人口はこうなりました。学校は2つも減っちゃいました。ここはこうなりました。ハイジアパークはこのとおりです。そして、今回かわでんさんの移動の話も、大変市民レベルから言うと、危機的な状況です。と私は思っているんですが、それを逆に手に取って、ここを生かして、こうしたらどうだとかっていう具体的なデータをですね、少しアンケートを書く際にあってもいいんじゃないかなと思いました。議会で行政視察など行きますと、そちらの議会さんの方で段取りする、その相手先(市)の動向、予算とか、あと人口構成とか、こういう課題があったプロジェクトとか、それからいわゆる議会の活動ってあるんですが、ダイジェストの部分で何か南陽市を、市民としてもう1回見直すきっかけになるような、大変な作業かもしれませんがそういったものを一緒にここにお示ししてはどうかなと思っております。その点、その資料、それから地域ごとに課題がたくさんありますから、そういったものまで言及できるような質問の仕方みたいなところの点もちょっと留意していただけないかなと思ったんですが。

(事務局)

ありがとうございます。資料等についてはこちらの方で、入れるものは準備してございません。また先ほ

ども申し上げましたが、地域の属性は大きく8区なんですけれども、そこでの関連性はクロス調査の方で行います。赤湯地区の方はこういったことを言ってる、宮内地区の方はこういったことを言っているという調査の統計は取れますので、そこらはある一定の先ほどの子育てと同じようにできるのかなとは思っております。どれを、今の南陽市の状況ということで、資料としておあげするかというのも莫大な量になってしまいますので、例えば今おっしゃったようなところをピックアップしているとすれば、例えばそちらの方に考えが引っ張られていくっていうお考えも、アンケートを書かれる方には出てくるかと思えます。平等に全てを網羅して南陽市の情報を市民意向調査の中で盛り込むというのは大変難しいことかと考えておりますので、そういったことが可能であれば、本当に南陽市のことを分かっていたら、市外のことも分かっていたら、南陽市の発展についてどう考えるかというご意見をいただけたらと思うんですけれども。ちょっとそういった資料は今のところ準備していない状況でございます。

(須藤清市委員)

先ほどの説明で、24問で限界だという判断がございました。だけど書く気になれば、数が多いから書かないというふうに簡単には結び付けられないと思えます。やっぱり、1つこれだけは言いたいところがあれば、もう1ページ、2ページ書きたい人も中には出てくるかもしれません。そういう意味で、もうちょっと今のお話は分かるんですけれども、少なくとも5年間経過してきましたので、それに対して行政的にはこんなふうに、こんなことがありましたという資料とか、それから地区ごとに話題になっていること。そういうことが全然無しで、今いらっしゃるあなたが思うことを書いてくださいというだけだと、あとで年齢別、地域別などは分けられたとしても、どういうものかなというのもちょっと私としては不安がございまして。先ほど加藤委員さんがおっしゃったような、そういう視点も必要だと思いますし、せっかくこのアンケート取るのに何か方法がないかなとちょっと思ったりしておりますが、やっぱり無理ですかね、資料をつけるのは。

(事務局)

資料を付けるっていうのはちょっと難しいかなとは、今のところ考えております。ただ市報等々で、南陽市の状況については毎月発信させていただいておりますので、近況状況、予算の状況、地域の活動とか。地区によっては、地区の公民館だよりにおきまして毎月発出しているわけです。地区の状況について。なので、そういったことに関しては大変恐縮ではございますけれども、ご自分で収集なさっていただいているという前提のもと、こちらの方では考えてございまして、最後には自由感想ということで、自由に意見をお聞かせいただけて、どういったことを考えていらっしゃるのか、そういったことについてはそこに書いていただければありがたいのかなということで、この形をとらせていただいております。確かに24問ですので、もっと項目を増やしてもいいのではというご意見はあると思うんですけれども、前回も2,000名にアンケートさせていただいた結果、回答が800名ほどでした。4割の方からご回答いただいております。年齢の上限は上までございますので、ご高齢で書けないという方も当然その中には含まれていると思うんですけれども、回答率が4割ということでございますのでそこを伸ばすためにも、そういった状況で今回はこのように考えたところでございます。

(須藤清市委員)

事務局的には大変ご最良な答弁なんですけれども、この資料1のような資料は付くのでしょうか。前はこんな形で作った前期5年間でしたみたいな、このような資料を入れないのでしょうか。5年間、こういう形

で進めてきました。そして、この次の5年間に向けて、こういうものをこれからも作っていくということとか、ご自分で地域のことやそういった今までの資料などもお確かめした上で、ぜひそれぞれアンケートにお答えくださいくらいの、プレゼンテーションのような資料がないとしても、そういう位置づけの資料アンケートだっているのもいいのかなという気がしました。今日はそんなところで意見とさせていただきますが、どうでしょうか？

(事務局)

資料1のこの表ですね、策定方針と大きな基本目標。この資料ですと全体的なことを全て網羅しておりますので、そういったことでしたら入れるということは今後検討できるかなと考えております。

(会長)

7月の下旬までに、結構いろんな今までの全般のまとめとか、それから新しいこと、それでちょっといろいろな議論させていただくような形で、須藤委員よろしいでしょうか？

(須藤清市委員)

分かりました。

(会長)

黒沢委員いかがでしょうか？感想でも何でも結構なので、お願いいたします。

(黒澤ちよ子委員)

農業委員会の方からなので、農業委員の立場から言わせていただければ、これからの農業は本当に危機感がありまして、これからの高齢の方々が確かに公共交通とかもそうですけど、今まで頑張ってきた高齢者の方が通常の生活ができない、離農されるといった状況のときに、一番はこれから高齢化社会になるので、年金の受給も上がってきてしまいますので、いかに今いる高齢者の方が元気に過ごしていただいて、何かコミュニティでも何でもいいんですが、元気に過ごしていただいて、なるべく家族全員が暮らせるようになるといいのかなと思っております。コミュニティとかそういうのがあって、少しでも元気な老人が増えていくことがいいのかなということと、子どもは本当に少なく、私にも孫がいるんですけど、南陽市は最終的には何校になるのかなと、小学校もほとんどなくなりまして。荻小も無くなって、中川小も無くなって、次は梨郷小と漆山小なのかなと思うのですが、そういった段階で中学校も3校あるんですけど、その3校も周りの市町村から比べれば、川西町も1校、高畠町も1校になって、南陽市は今かろうじて3校あるんですが、そういった教育の面から見ても保護者の面から見ても、これから南陽市ってどういうふうになるんだろうと。他はみんな良い子で、綺麗な新しい校舎で頑張っているのに、南陽市は耐久で多分クリアしてるのは新しい宮内中学校は綺麗ですけども。老人の面でも少子化の子どもの面でも山積みかなというふうな感想です。以上です。

(会長)

ありがとうございました。次回このような話を中心に行いますので、基本的に農業だけじゃなくて、ものづくりも、教育も非常に大きな変化の中で日本が非常に苦しんでる、日本全体が。その中で、地域が豊かになるためにオリジナルな考え方をを出していただくのが、7月の後半かなと思っておりますので、時間をたっぷり

取っていただいて議論させていただくことになっております。最後に遠藤委員の方から何かコメントあればよろしく願いいたします。

(遠藤榮吉委員)

実は山形県は100万人切りますよね。昨日、たまたま上山市の議長と副議長が来られたんですよ。お話をしている際に、先ほど須藤委員から話があった上山市のかわでんの話があったんです。議長とお話していたら、上山に行ったのが中山です。川樋は、中川は赤湯町にしたんです。本来ならば一緒なんですよ。奪い合っている場合ではない。という話に昨日なつたんです。私が議員になったとき、人口が上山市の方が多い。今現在、1,000人ぐらい人口が南陽市の方が多い。何が駄目なのかと聞いたら、上山市の年寄り、私ら年代くらいの子どもの、山形の家を建てさせる。子どもは山形に住む、孫は孫で住む。今言われているのは、南陽市も人口が減っています。少ないんです。西置賜から来てるんですよ、意外と。親は長井市に行って、子どもたちは赤湯に。だから、人口が減ってますが、東根市、天童市は人口が増えてるんですよ。大石田町、尾花沢市、村山市からそういう傾向があるのかもしれない。とたまたま話をしていたんです。みんな商売もそうなんですが、奪い合いですよ。競い合い、勉強もそうなんです。もっと和やかにできればいいなという感じに思うのですが。でも、池田委員は勝負の世界で本当に、金メダル、トップを目指さないと、勝負ですから。議員もそうなんです。当選しないと駄目なんです。議員っていうのは、政治っていうのはって、この間喋ったんですよ。昨日もある議員が来て、話したってしょうがないんじゃないかと。言葉を形にするのが政治で、予算をどうするか。職員に、やんやんと言ったって、アンケートを取ったってしょうがないんですよ。するかしないかは市長とその幹部で、予算を通すか通さないかは議員ですよ。でも、本当にいい機会ですから本音を喋っていただいて、それを掬って、若い人のためにしていくことが、これからの世の中に必要じゃないんですか。と昨日、上山市の議長とたまたま話していた。でも、今は奪い合いです。これから色々上山市も問題が出てくると思いますが、高畠町も上山市も、南陽市も、ワインでは一緒です。そういうふうな農業関係から第6次産業まで、一緒にやれるようなこういうところで意見を出して形にしますので、本音でお話してください。以上でございます。

(会長)

ありがとうございました。次回、少し長めに時間を取っていただいて、今年度やっぱり議論していかないと個々の問題にしても、大学の問題にしても、人口が目線を持っていて、山形大学はやはり持てるかどうかという話もあるんですよ。県内の大学が全部1つになろうとか、そういう時代なんですよ。そういう意味では、やっぱり今、遠藤委員が言ったように、いろんな解決方法があるので、いろんな話をしていただいて、次回、後期に向けて本当に良い目標を立てて、みんなで意識をそこに持って、どうやってという意思がないと、やっぱり市だけがやるのではなくて、議員さんがやるのではなくて、市民の人たちがその気になるようなまとめ方をぜひやりたい、皆さんと議論して持っていきたいなというふうに思ってます。日本全体がやっぱり人口がどんどん減っているわけですから、いろんな教育、産業、農業、全てそういう問題にやっぱり関わってきますので。私もちょっと、山形大学で今やってることはちょっとそんなことなんですよ。強くしていこう。工学部を変えていこう。

公にしましてしまいますけど、私のところで今、4年後に人工衛星を上げてもらう計画をしているんですよ。県内の企業と。そういう元気なところを出して、良い人材を引き付けようということ。良い人材を引き付けて、企業が新しいところで展開していく。人工衛星で、県内の農業とか、高齢者をどういうふうにかえしていくか、

という全く新しいことを考えて、そのプロジェクトを今やり始めている。6月初めに記者会見して、皆さんから色んなご意見をいただきたいと思っている。そのプロジェクトを今大学で進めております。そういう全く新しいことをやっていかないと、やっぱり地域社会がうまくいかない。

この場は、これで終わらせていただいて、ご意見があれば、みらい戦略課の方に行っていただて話をいただき、7月の後半に素晴らしい議論ができるように、少し時間を長くとって、皆さん了解いたしておりますけど、ちゃんと議論をさせていただきたいなと思います。

協議事項、アンケート調査に関して終わらせていただいて、議長降壇させていただきます。スムーズな進行にご協力いただきありがとうございました。

次回はぜひ副議長2人入れていただいて、サポートしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

以上。